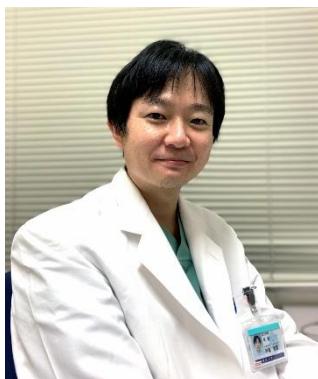


北海道消化器内視鏡技師会 Winter Seminar2026 講師紹介



医学講義①「胆膵内視鏡治療の現在地 基本から最先端へ」 旭川医科大学 内科学講座消化器内科分野 河端 秀賢 先生

旭川医科大学をご卒業後、旭川赤十字病院で11年ほど勤務された後、大学に戻られ胆膵診療に専念されています。ERCP・EUS・経皮治療を中心に広く胆膵治療を行っており、EUS関連治療を得意にされています。他院で対応困難な症例や他院での手術や内視鏡治療で起きてしまった残念な合併症を（時には、外科治療も併用しながら）レスキューすることも使命とされ、道北の最後の砦としてご活躍中です。また、膵癌やIPMN（膵管内乳頭粘液性腫瘍）などのKRAS遺伝子やGNAS遺伝子を中心とした基礎研究や、内視鏡関連の特定臨床研究も積極的に行ってています。

医学講義 2 「もう一度整理しよう上部消化管内視鏡検査の基礎から最新の治療まで」 札幌医科大学医学部 腫瘍内科学講座 平川 昌宏 先生

十勝の幕別町出身、帯広柏葉高校から札幌医大へご入学。小さいころからアイスホッケーが趣味。2013年に学位を取得後、2014-2016年までボストンのハーバード大学ダナ・ファーバー癌研究所に留学。得意分野は内視鏡診断・治療をはじめ、消化器を中心としたがん薬物療法。研究の分野では、ノーベル賞でも話題になった制御性T細胞などの免疫細胞の研究を行っておられます。2019年から2024年まで北海道がんセンターにおいて、がんを中心とした内視鏡診断、治療、薬物療法に磨きをかけ、2025年より現職の講師としてご活躍中です。



医学講義 3 「ここまで進化した！IBD内視鏡！」 札幌東徳州会病院 炎症性腸疾患（IBD）センター 伊藤 貴博 先生

旭川医科大学をご卒業後、消化器内科として道北の関連病院を経たのちに現職に就かれました。IBDが専門ですが内視鏡診断・治療が大好きな内視鏡医です。IBD診療での若手医師やコメディカルの育成にも力を入れていて、スタッフには絶大な人気を誇ります。近年は薬物療法が急速に進化していますが、内視鏡診断・治療が非常に重要と考えており特に力を入れています。また、JDDW2024でカプセル内視鏡の演題で優秀演題賞に選ばれました。

技師講演「内視鏡検査・治療のNext Stage ー支える力を、次の一步へー」 慶應義塾大学医学部 内視鏡センター 佐々木 基 先生（臨床検査技師）

2008年に昭和医療技術専門学校をご卒業後、虎の門病院（東京）に就職。2012年からは慶應義塾大学に移られ、内視鏡治療の介助・手技開発に力を注いでいます。これまで5500症例のESD介助実績をもち、その中でも十二指腸ESD介助では1500症例を超えていました。国内の治療ライブはもとより海外ライブでの介助実績も豊富で、今回は様々なテクニックについてもご講演いただきます。

